



～オリックスグループの強みと今後の成長戦略～

オリックスについて

- **先進的・国際的な商品・サービスを提供する金融サービス会社**
 - ・1964年、リース会社の草分けとして大阪で創業、「自主独立路線」で金融分野を中心に常に新しいビジネスを追求し、成長・発展してきました。
 - ・創業6年目の1970年に大証2部上場、1973年に東証・大証1部、1998年にニューヨーク上場
 - ・直近の業績(2017年3月期)は、
営業収益:2兆6,787億円、当期純利益:2,732億円
総資産 11兆2,319億円、従業員34,835人です。
 - **多角的な事業ポートフォリオ**
 - ・リース業からスタートし、「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へまた隣へと事業展開しています。
 - 「金融」: 融資、投資、生命保険、銀行、資産運用
 - 「モノ」: 自動車、船舶・航空機、不動産、環境エネルギー、コンセッション*
- * 利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定する方式

進化し続ける事業

- **独自の強み・シナジー効果を生み出す6事業**
 - ・6つの事業セグメント(法人金融・メンテナンスリース・不動産・事業投資・リテール・海外事業)が各々独自の強みを最大限発揮すると共に、有機的に結び付き、相乗効果を生み出し、バランスのとれた事業ポートフォリオを構成しています。
 - ・多様な事業手段を持っているため、世の中の変化を捉えて、常に事業構成を進化させ、収益基盤を強化することができます。
- **グローバルなネットワーク**
 - ・国内で培ったノウハウを元にネットワークを拡大、世界36か国で事業を展開しています。
(拠点数: 日本1,429、日本以外700)
- **創立以来52年間毎期黒字で直近は最高益更新**
 - ・2017年3月期は8期連続増益、かつ過去最高益(2,732億円)でした。

中期的な方向性

- **目標とする経営指標**
 - ・利益成長
2018年3月期に当期純利益3,000億円を目指す。
 - ・資本効率性
ROE 11~12%を目指す。
 - ・格付A格を維持
- **事業戦略: 「事業」と「投資」に注力**
 - ・「事業」と「投資」に注力、「事業」中心に安定収益の割合を高めます。具体的には、不動産の施設運営、環境エネルギー、コンセッションのような自らオペレーションを行う事業に注力していきます。
 - ① ホテル、温泉旅館、ゴルフ場、多目的ドーム、水族館、高齢者向け施設などの施設開発・運営を強化
 - ② 自社電源開発で総合エネルギーサービス事業者へ
 - ③ 関西国際空港・大阪国際空港(伊丹空港)、下水道など公共インフラの管理・運営を強化
- **人材戦略: 価値創造の源泉は「人材」**
 - ・“Keep Mixed” 多様な人材(ダイバーシティ)で、多様な価値観・専門性による「知の融合」を図り、新たな価値を生み出します。
 - ・女性管理職比率を2020年までに5%引き上げます(2015年3月末: 18%)。

当社株式の魅力(株主還元)

- **株主還元**
 - ・持続的な利益成長に向けた新規投資と、安定した還元との最適バランスを考慮します。
 - ・2017年3月期は1株あたり52.25円に増配(前期比+14%)、配当性向は25%です。
 - ・2018年3月期の1株あたり中間配当予想は27円と同じく増配(前年同期比+4円)です。
- **株主優待**
 - ・全国の取引先の名産品を集めたオリジナルのカタログギフト「ふるさと優待」と「株主カード」による自社グループの商品・サービスの割引をご提供しております。